

これからピース部でやりたいことは？

活動を始めて1年。これから、ピース部でどんな活動をしたいか、みんなで出しあってみました。

定期的集まって
ピース部の仲を
より深めたい！

世界の平和活動者と
交流して平和への考え方を
学びあいたい！

何か楽しい形で、
様々な人と関わり合える場
(子どもも大人も楽しめるお祭りなど)
を作りたい！

平和に関する展覧会や
若者向けワークショップ
を開きたい！

紛争で難民が増え
続けている世界の現状に
目を向けた活動を
やりたい！

派遣された
長崎のほか、広島
などに行って戦争に
ついてもっと
学びたい！

海外に行って
戦争や平和について
学びたい！

様々な年代、国籍の人と
平和について語り合いたい！

公式サイトやSNSの運営、
番組制作でピース部の
活動を広めたい！

ピースメッセンジャー2024 参加者募集

「ピースメッセンジャー」として被爆地である長崎を訪問し、戦争・平和に関する現地施設の見学等を通じて戦争の悲惨さや平和の大切さを学びます。学んだことや平和への思いは報告会やメッセージボードの展示を通して、市内外へ広く発信します。

募集開始は4月中旬を予定しています。詳細は市報や市HPをご確認ください。



発行/調布市・ちょうふピース部
協力/NPO法人ちょうふ子どもネットワーク
取材協力/調布市原爆被害者の会
高校生平和大使・高校生1万人署名活動東京支部
問い合わせ/生活文化スポーツ部文化生涯学習課
〒182-8511 調布市小島町2-35-1
Tel:042-481-7139
Mail:bunsin@city.chofu.lg.jp
発行日/令和6年3月

ピース・レター ちょうふ

ちょうふピース部特別版



ピース部メンバーで作成した
オリジナルのロゴです。

～みんなの“平和”の想いをのせて～

令和6年3月発行

私たち「ちょうふピース部」はピースメッセンジャーの取組に参加して得た経験や想いを、もっと多くの人に発信するために活動を始めました。先輩ピースメッセンジャーとして当年度に被爆地へ派遣されるピースメッセンジャーと交流したり、調布市の平和祈念事業の運営に協力したりしています。



ピース部会の様子



ピースメッセンジャーと一緒にいったフィールドワークと交流会の様子

そして今回、調布市が毎年発行している「ピース・レター ちょうふ」の特別版を私たちが作るため、平和を願い活動している方々にインタビューをして、感じた想いを記事にしました。

このピース・レターを通して、私たちの平和への想いを感じていただき、平和について考えるきっかけになれば嬉しいです。ピース部一同

「ちょうふピース部」とは

調布市は「ピースメッセンジャー」として任命した市内の中学生を市民の代表として被爆地へ派遣し、学びの成果を広く市民へ還元する取組を行っています。

これまでに任命されたピースメッセンジャーたちが、派遣された年度以降も継続的に活動ができるよう、令和5年度に「ちょうふピース部」を立ち上げ、活動が始まりました。



先人の「想い」を心に刻み、同世代の「仲間」と共に後世へ

調布市原爆被害者の会（調友会）の方々へのインタビューを通じて

調布市原爆被害者の会（調友会）の方々にお話を伺いました。調友会は原爆被害者の救援や核兵器廃絶に向けた署名活動などを行っている団体です。今回インタビューを行った3人のメンバーが感じたこと、印象に残ったことを共有します。皆さんが平和について考えるきっかけになると嬉しいです。



私たちは調友会の方々の話を聞いて、長崎を最後の被爆地にしようとおっしゃっていたことが印象に残りました。私たちが戦争の恐ろしさを理解し伝えていくことで、平和を守っていけないのではないかと思います。長崎を最後の被爆地にするには、まず核兵器を廃絶し武力ではなく対話で解決できる環境を作れたら良いのではないかと思います。（斉藤莉梨奈）



私たちは、これからのことを他人任せにはしていないと感じました。調友会の方々は「平和というのは一人一人違うから平和に対する自分の考えや姿勢を持ち自分の軸を作ることが大切だ」とおっしゃっていました。自分がこれから作っていくのだという責任を持って平和について考えることで、人同士、国同士が手を取り合うことができるのではないかと思います。（滝理沙子）



平和を考えると、戦争について考えることも必要になります。しかし、私たちの世代は戦争を実際に体験しておらず、具体的に考えることが困難です。このことについて、調友会の方々は「戦争の実体験がないとしても、事実を知り、意見を持つことで平和を考えることができる」と語ってくださり、私たちは平和を享受するだけでなく、自分たちで創り上げ、後世に繋ぐことが大切だと感じました。（徳永曜）

高校生平和大使にインタビュー

高校生平和大使とは

公募選出された高校生たちが、核兵器廃絶と平和な世界の実現を訴え、国連欧州本部訪問をはじめ国内外での発信活動を行っています。また、「高校生1万人署名活動」に参加する高校生とともに街頭署名活動に取り組んでいます。

参加したメンバーの想い

「ピリョクだけどもリョクじゃない。」

高校生平和大使のみなさんは、日本だけでなく世界で核兵器の廃絶を訴えています。私たちが訴えているだけでは世界は変わらないかもしれませんが、それはリョクではなく少しずつの積み重ねであり、大切なことなんだと気づかせてくれます。（斉藤莉梨奈）

「後世に伝えていくことが私たちの使命」

私は高校生平和大使かつピース部のメンバーとして交流会に参加し、各メンバーの活動のきっかけや熱意を感じることができた。メンバーは皆、資料館等で戦争当時の写真や遺品を見てショックを受けたと話していた。だからこそ、戦争の悲惨さや平和の尊さを同世代に、後世に伝えていくことが私たちの使命なのだと言った皆が再認識したと思う。（涌井董子）

「きっかけはなんでもいいので、戦争について知ることが大切。」

私たちはピースメッセンジャーをきっかけに学校の授業で知識として得た戦争以外の戦争に触れました。ちょうふピース部の活動でも戦争を知るきっかけを作る活動ができたならと切実に感じました。（工藤海寿寿）

「本当に私たちと同じ10代!？」

高校生平和大使の方々は積極性と行動力を持っていました。核兵器廃絶のため、人通りの多い公場で堂々と、ひたむきに署名活動している姿はとてもしっかりよかったです。（金子真衣）



【印象的なインタビュー】

- Q 活動は毎年同じことを行いますが、それとも新たな活動をするのですか？
- A 例年通りの活動も行いつつ、みんなで意見を出して新しい活動もしています。

Q 原爆資料館にある生々しい資料を見て辛いと感じることはないのですか？

A 見ていて辛い資料もありますが、実際に起こったことなので、目を背けてはいけないと考えています。必要以上に重くとらえて現実から目を背けるよりも、現実をしっかり見るべきだと思います。